

輝人 かがやきびと

このコーナーでは仕事やプライベートで
“輝く人”を紹介します。
第31回は、ドラッグアカカベ四條畷店で
活躍する青木 佐織さんを
クローズアップします！

店は変わっても絆は続く 異動するたびに増える仲間が 私の財産

異動への不安を 希望に変えた言葉

地元は旧・大東店*の近く、アカカベは昔から身近な存在だったという青木さん。転職を考えていた時に住道店の求人に出会い、オープニングスタッフとしてアカカベに入社した。入社から5年が経ったころ、住道店から扇町店への異動が決まった。

「パート社員から契約社員になったタイミングで異動が決まりました。オープニングから一緒に仕事をしてきたみなさんと離れることがとても寂しくて、異動することに対して不安な気持ちでいっぱいでした。」そんな青木さんの背中を押したのが、共に働く仲間から送られたある本だったという。

「お世話になった薬剤師の方から『置かれた場所で咲きなさい』という本をプレゼントしていただきました。「置かれたところこそが、今のあなたの居場所」という著者の言葉に、変化を前向きに捉えるきっかけをいただけたと思っています。それ以来、今でもずっと大切にしている言葉です。」

*扇町店の前身となる店舗。現在は業務スーパーとなっている

扇町店時代が変わった、 仕事に対する意識

扇町店での日々を振り返って“気持ち的に成長できた時期”と話す青木さん。規模も大きく、忙しい店舗、自分ができることを増やさないとダメだという、焦りに近い思いで日々奮闘していたという。「任せていただく業務の



青木さんのモットー+

「置かれた場所で最善を尽くす」

青木 佐織
(あおき さおり)

2009年4月7日入社。
住道店のオープニングスタッフとして入社。その後、扇町店、鶴見橋店を経て四條畷店へ。
細やかな気遣いで店長、副店長を支える。

範囲が広がる反面、自分の力不足を感じて“もっと成長したい”という一心でした。店長、店長代理共に、頑張ったことに対しては必ずフィードバックをくださるので、ちゃんと見てくださっているということが、さらなるやる気にも繋がりました。以前は毎日が精一杯で、自分のキャリアについて考える余裕がありませんでしたが、扇町店での経験を通して、目標とする人ができたり、仕事に対する意識が大きく変わったと思っています。」

新店への異動と新たな挑戦

2019年12月の鶴見橋店オープン前日、採用されて間もない店舗スタッフのみなさんに、的確な指示を出しながら、オープン準備を進める青木さんの姿があった。「鶴見橋店への異動に伴い、医薬品と化粧品を担当することになりました。仕事の幅が広がり、やる気と希望に満ち溢れた思いでオープンを迎えたことを覚えています。扇町店とは異なる客層の店舗、戸惑うこともありましたが、私を訪ねて来店してくださり、化粧品をお買い求めいただくお客様の存在は大きな励み

でした。」鶴見橋店には、お客様の他にも嬉しい訪問があったそう。「住道店時代にお世話になった二人が様子を見に来てくれました。ずっと会いたいと思いながら、勤務する店舗が遠くなり会えていなかったお二人だったので、思わずその場でうれし泣きをしまいました(笑)。異動して一緒に働くことはできなくなっても、共に働いた仲間たちとの絆が続いていくことが本当にありがたく、嬉しく思っています。」

自分が成長することで 店舗に貢献したい

「昨年11月に着任した四條畷店では開店業務を担当させていただくことが多いのですが、店舗のみなさんに、店長の不在を不安に感じさせないような働きをしたいと思っています。自分が担当するカテゴリだけではなく、できる限り店全体を把握して、みなさんから何か質問を受けた時には、自信を持って答えられる存在で居たい。自分が勉強し、成長し続けることで、店長の負担を少しでも軽減できるように頑張りたいです！」